

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 11月号

2016年11月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：長原野（南部病院）

沖縄県回復期リハビリテーション病棟協会・第4回研究大会 参加報告 沖縄リハビリテーションセンター病院：島袋正也

平成28年9月24日（土）14：00～17：00 浦添てだこホール市民交流室において、沖縄県回復期リハビリテーション病棟協会・第4回研究大会があり参加致しました。

大会テーマは「あらためて再考する、回復期リハビリ病棟」で、特別講演と一般演題が8演題と盛りだくさんの内容でした。

特別講演では、「体という乗物から見えた風景～失って見えてきた大切なもの」と題しまして、講師の山川友教様より患者としての自らの体験談をお聞きすることが出来ました。ギラン・バレー症候群を発症され、頭だけがクリアで自分の体がどこも動かない状況を「人間の体という乗り物に乗って目という窓から外の世界を見ている感じ」と表現されていました。そのような状況の中で、息が苦しくて喀痰吸引をして欲しいが、ナースコールを押そうにも体が動かない恐怖を語られていました（息を吹きかけてコールが出来る設備の重要性を切実に訴えておられました）。また、回復期リハビリ病棟で患者をささえてくれたプロフェッショナルたち（もちろんMSWも含まれます！）への感謝も語られ、同じプロとして嬉しくもあり、プロとしての責任を改めて感じました。

一般演題では、各病院での様々な取り組みや課題、蓄積されたデータからの検討報告などの発表がありました。中でも興味深かったのはオリブ山病院のPT 佐々木さんからの、アウトカム評価の対応についての発表でした。過去のデータを分析され、実績指数をクリアするため、FIM 運動項目2点の向上と在院日数7日の短縮を目標として設定されているとの事で、とても参考になりました。

今年度の診療報酬改定では、回復期リハビリ病棟のアウトカム評価導入や目標設定等支援・管理料などが創設され忙しい業務が続いていますが、その中でも患者一人ひとりの支援をしっかりと対応していく事の大切さを改めて考える機会となりました。

CONTENTS

沖縄県回復期リハビリテーション病棟協会・	
第4回研究大会 参加報告	1
第3回初任者研修報告	2
新入会員紹介	4
今月のトピックス	4
運営委員会議事録	5
研修部だより	7
はいさいワーク	8
コラム	9
福祉の窓	10

平成 28 年度 初任者研修会（3 回目・前半）報告

北中城若松病院 香村真範

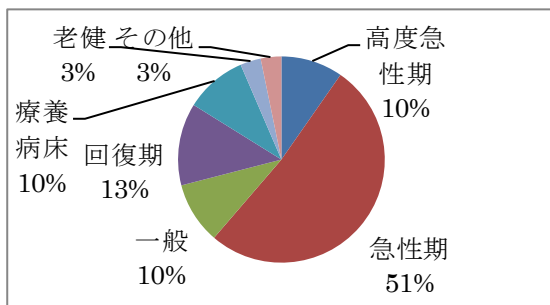
日時：9 月 17 日（土）14：00～ 場所：沖縄リハビリテーションセンター病院

「医療機関機能別専門知識」と題し、急性期・回復期・ホスピス・精神科の先輩ワーカーによる講義が行われました。今回は、前半の急性期・回復期の参加者アンケートを基に報告します。

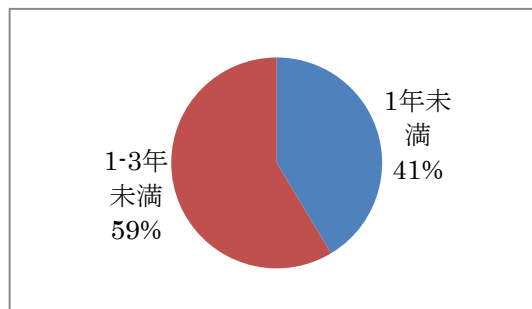
急性期 講師：秦克之さん（中頭病院）

参加者数：31 名

（内訳）



（経験年数）



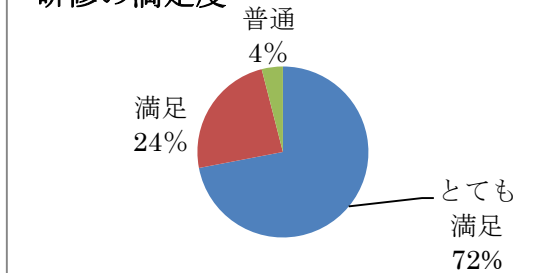
（印象に残ったこと）

1 位) D P C について 2 位) 急性期の役割 3 位) 支援の姿勢、謙虚になること
その他) 時間の使い方、アセスメントの方法、介入の必要性を見極める力等

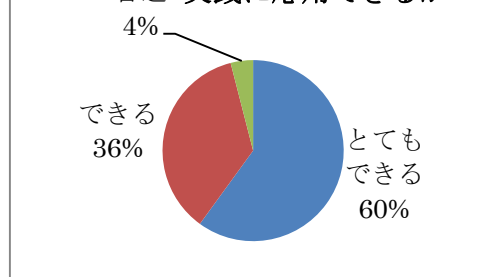
（感想）

- ・ 経験が一番の成長になるんだなと感じた。
- ・ 急性期 MSW の忙しさが数字をみて具体的に知れた。
- ・ 新人 MSW への熱い思いやアドバイスが響きました。
- ・ D P C について詳しく学べた。
- ・ 甘えていた気持ちに気づきました。プロとしての姿勢を心掛けようと思いました。
- ・ 支援が必要なケースの見極め、効率よく・効果的な支援を行うことの大切さ。
- ・ ふり返ることの大切さ。
- ・ 急性期中身が知れたことでこれからの転院相談→受入が行いやすくなった。

研修の満足度



実践に応用できるか

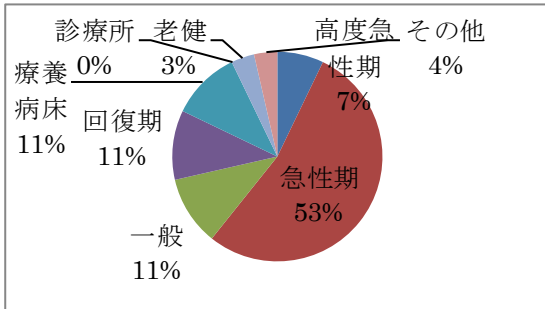


秦さんの“熱い思い”が伝わってくる講義でした。病院移転の準備で忙しい中、講師を引き受けてくださりありがとうございました。

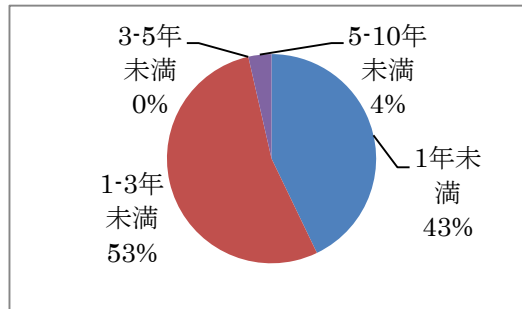
回復期 講師：安慶名真樹さん（大浜第二病院）

参加者数：28名

（内訳）



（経験年数）

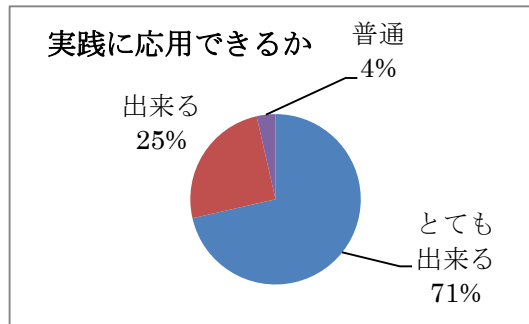
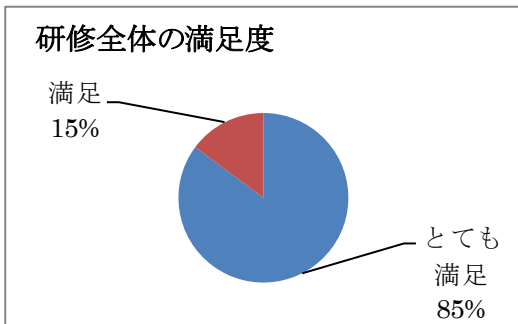


（印象に残ったこと）

1位) 施設基準 2位) 対象疾患について 3位) アウトカム評価の導入
その他) リハ期間、相談する際のポイント、FIMについて、

（感想）

- ・回復期の面白さが伝わってきた。
- ・受入基準が細かかったり MSW が細心の注意を払って入院受入の検討をしていること。
- ・事例があったのでイメージしやすい内容でした。
- ・回復期へ相談するケースが多いので、今日学んだことがとても役に立ちます。
- ・回復期での退院支援はとても奥が深いなと感じた。
- ・患者と家族を総合的にケアしていくことの大切さ。



相談する際のポイント、事例を用いた説明、“裏情報”などの紹介もありとても有意義な講義になったアンケート結果です。安慶名さんありがとうございました！

<研修風景>



講師や研修部の皆さん、アンケート集計をしてくださった方、大変ありがとうございました！

☆ 新入会員紹介 ☆
沖縄リハビリテーションセンター病院 古波蔵 圭一朗

H27年9月より少しずつ沖縄リハビリテーションセンター病院の地域連携室に勤務させて頂いております古波蔵圭一朗と申します。少しずつというのは理由があり、H27年4月から同法人の高齢者支援センターで相談員として勤務、同年9月より最初は半日からの兼務にて沖縄リハビリテーションセンター病院の業務を経験させて頂いているからです。そして、今年度の5月よりはれて1日勤務となりました。

元々、資格取得してから社会福祉士会等に入会したいと思っておりましたが、日々の業務をこなすのでいっぱいいっぱい入会とまでは至っていませんでした。勉強が好きというわけではありませんが、新しいことを知る事は自分にとって刺激となり、学生の頃から講演会・研修等への参加は好きだったので、「沖縄MSW協会に入会すれば研修の情報も回ってくるし、気軽に参加できるよ」と先輩に誘って頂き、喜んで入会させて頂きました。しかし、入会金を払わなくてはと思いながらも月日が経ち……。今に至るのでこの紹介が掲載されるまでにはしっかり支払わせて頂きます。

まだまだ社会人・相談員の経験共に未熟ではありますが、先輩方に支えられ日々の業務を何とかこなしていくよう努めていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

今月のトピック

那覇市立病院 伊禮 智則

「うず巻きパン」。ジャリジャリと砂糖を直球で感じるクリームをふわふわのパンで巻いたパン。宮古島のソールフードのひとつだ。最近ではうず巻きパンの生地とクリームにカステラ生地を追加したしかくパンや、うずまきラスクなるものも出ていて、バリエーションも豊富だ。宮古島に行った記念に工場から直接パンを購入しようと思い、富士製菓パンを訪ねた。昼も過ぎていたため、あいにくパンは出荷された後だったが、購入できる場所を教えてもらい、おみやげにうず巻きラスクをいただいた。いい人だ。

さて、ここまで書いてなんだが、今日のはうずまきパンの話ではない。宮古島での入退院支援連携デザイン事業のことだ。宮古島の現状について各専門職から意見を聞いた。宮古島には急性期の医療機関が2か所、療養型の医療機関が1か所、介護老人保健施設2か所、特別養護老人ホームが1か所あり、有料老人ホームの数も充実していた。居宅介護支援事業所も多く、訪問診療や訪問看護も充実しており、在宅看取りも行っている。島内の専門職同志、お互いの顔を知っている間柄は強みであると感じた。「連携」についての取り組みは、医師会コーディネーターや介護支援専門員、地域包括支援センター、医療機関、行政で3年前から連携ツール開発に取り組み、現在活用されているようで積極的だ。一方で、回復期病棟が無いことや、島内に家族がいない独居高齢者の支援などが課題としてあげられた。また、各機関、各職種の機能や役割を患者や家族へ理解してもらうこと、患者の「思い」を聴き、退院後の生活課題に対する支援目標を明確にすること、関わる全ての専門職と患者本人、家族と一緒に目標を設定し、役割を分担すること、それを患者自身がイメージできることが必要であるということが示された。島内では島民同志も顔見知りの間柄で、お互いのことを気にかけて、助け合おうという強さがある一方で、うわさが広まることに対する不安感や治療に対する中央志向もまだまだ根強いことは配慮が必要な要因として感じた。

入退院連携デザイン事業は、抽象的でふわふわとしてまだ私自身つかめないところもあるが、こういった一つ一つの言葉や意見を紡いで具体的にしていくこと、イメージできるようにし、それが継続されることが大切なのだと感じている。うずまきパンの製造工程は知らないが、きっと私たちの手に届くまでたくさんの方が「連携」しながら、それを今日まで継続していることが、生活の一部として、宮古のソールフードとして認知されているのだろうなと感じる。入退院支援連携デザイン事業も生活を支える一部として浸透し、しかくパンやうずまきラスクのように違う展開で地域のよいシステムに展開されていくといいなとぐるぐる考えがうずまいてる。

平成 28 年 10 月運営委員会議事録

開催日時：2016（平成 28）年 10 月 17 日（月）19：00～19：58

出席者：樋口（司会）、望月、石郷岡、新垣、嘉村、安慶名、奥平、島袋、伊禮（記録）

場 所：那覇市立病院

研修部：嘉村

■ 宿泊研修（50 人定員）

平成 28 年 11 月 19 日（土）13:30 受付 14 時～18 時

11 月 20 日（日）8:30 受付 9 時～12 時

場所：手作りあいあいファーム 2 階セミナー室

テーマ

「医療ソーシャルワーカーの自己覚知からソーシャルワーカーとしての専門的職業的自己覚知～」

■ めだかの学校

日 時：2016（平成 28）年 11 月 ※調整中

場 所：沖縄協同病院

内 容：事例検討

■ めだかの放課後

日 時：2016（平成 28）年 11 月 17 日（木）19：00～21:00

場 所：中頭病院

内 容：未定

■ めだかのホームルーム

日 時：2016（平成 28）年 11 月 2 日（水）19:00～

場 所：沖縄協同病院

内 容：事例検討

■ OGSV

日 時：2016（平成28）年11月9日（水）18：30～20：00

場 所：那覇市立病院（4階 会議室）

内 容：認定医療社会福祉士 レポート報告会 松永さん
地域医療連携におけるPDCAサイクルについて

広報部：

■MSW ニュース・・・11月号担当：南部病院 長
（原稿依頼済み）

■ホームページについて

10月に載せ替え済み。

訂正箇所あり。→直接広報部へ伝える。

九州 MSW 協議会：望月

■ 教育研修部会からの提起事項について

- ・ 教育研修部会部の2回開催について（1回目は大会。2回目は年末）。→承認。
- ・ 中堅者研修を、大会とは別の日程で開催することについて→本大会の前日開催案、本大会期間中に別企画として開催する案、別開催の場合は運営県で開催案。
※県協会意見をまとめて九州協議会に提案する。
- ・ 教育研修部会への運営金補助について→承認。（ただし、優先順位としては、①各所属機関②九州協議会③県協会の順）※県協会で補助できるのは1回

会長：樋口（那覇市立病院）

■ 入退院支援連携デザイン事業

（1）実務者研修（予定）

- ・ 12月4日（日）宮古地区 県宮古庁舎講堂
- ・ 1月29日（日）八重山地区 県八重山支庁大会議室
- ・ 2月4日（土）中部地区 嘉手納町中央公民館
- ・ 3月5日（日）北部地区 名護市役所羽地支所
- ・ 3月18日（土）南部地区 ゆいホール

（2）事前打ち合わせ予定

- ・ 10月21日（金）宮古地区
- ・ 11月18日（金）八重山地区

（3）ハンドブック

- ・ 那覇市立版ハンドブックを各職能団体に見てもらい、県事業のハンドブックを作成する

（4）MSW サマリー

- ・ リーダー研修で出た項目を、めだかのホームルームでまとめてもらう
※島袋がサポートする

（5）次年度の県事業打ち合わせ

- ・ 10月19日（水）

■ なごみ会懇親会

日 時：2016（平成 28）年 11 月 29 日（火）19:00

場 所：ハーバービュー

※会長参加できないため代理をたてる。

その他報告

■ （宜野湾市）平成 28 年 介護支援専門員と医療機関との意見交換会
→平成 28 年 10 月 14 日（土）行われた。

■ 地域包括ケアを目的とした 在宅医療推進のための多職種研修会
～いっぺり上等なケアカンファレンス・担当者会議を目指して～

日 時：2016（平成 28）年 11 月 3 日（木）13:00～17:30

会 場：沖縄県医師会館（3 階ホール）

次回理事会：11 月 21 日（月）18：30～ 司会：新垣 書記：石郷岡 連絡係：奥平

以上

研修部だより 平成 28 年 11 月の予定

宿泊研修・初任者研修（初任研は 5 回目）

日時<1 日目>平成 28 年 11 月 29 日（土） 13：30 受付 14：00 開始

<2 日目> " 11 月 20 日（日） 8：30 受付 9：00 開始

会場：今帰仁の里 手作りあいあいファーム 2 階セミナー室（今帰仁村湧川 369）

内容：『医療ソーシャルワーカーの自己覚知』

～ ソーシャルワーカーにとっての専門的職業的自己覚知 ～

講師： 黒木 信之 氏

めだかの学校 定例活動

日時：11 月 30 日（水） 19：00～

会場：沖縄協同病院

内容：事例検討 提供者（玉那覇さん） バイザー（當銘さん）

※詳細は、地域の連絡係から案内があると思います！

めだかの放課後

日時：11 月 10 日（木） 19：00～ ※定例の第 3 木曜ではなく第 2 木曜です！

会場：中頭病院（新病院）

内容：入退院連携デザイン事業 MSW サマリーについて

めだかのホームルーム

日時：11月2日（水）19：00～

場所：沖縄協同病院

内容：事例検討

●OGSV●

日時：11月9日（水） 18：30～20：00

場所：那覇市立病院

内容：認定社会福祉士レポート報告 松永理恵さん
地域医療連携におけるPDCAサイクルについて

はいさいワーク Vol.79

那覇市立病院 正職員【医療ソーシャルワーカー（MSW）】の募集です。

詳細は、那覇市立病院のホームページをご参照ください。

採用職種 医療ソーシャルワーカー（MSW）

採用予定日 平成29年4月1日

採用人数 若干名

応募受付期間 平成28年10月12日（水）～平成28年11月8日（火）

資格経験等 以下の両方の条件を満たすこと

- a. 社会福祉士資格保持者
- b. 急性期病院にて医療ソーシャルワーカー業務経験がある者

業務内容 医療ソーシャルワーク業務全般

給料 基本給(参考)

①大卒経験3年 178,800円

②大卒経験5年 191,600円

③大卒経験10年 208,200円

以上職歴加算込

※毎年1回定期昇給あり

手当 通勤手当：有り（2km以上）

扶養手当：有り

住居手当：有り

賞与 有り（年2回 平成28年度は4.2月分支給 ※在職期間による割り落としあり）

退職手当 有り（3年以上勤務した場合に限る）

年金/保険 厚生年金 / 沖縄県市町村職員共済組合

備考 資格の要件、応募方法等の詳細は募集要項（PDF形式）をご覧ください。

※採用試験申込書、エントリーシート及び職務経歴書はPDFファイルを印刷してください。

コラム

「Not doing, but being.」

近代ホスピスの母と言われるイギリスの医師、故シシリー・ソンドース博士の言葉です。ホスピスケアの原点と言われており、意識すると「何もしないでいい、ただそばにいて」ということになるのでしょうか。死の臨床において援助者は患者に対して、「何かを」しようとあがきながらも、時に「何も」できないことを思い知らされる場面があります。無力感に苛まれ、これまでの自分の経験が否定されているように錯覚する場合があります。しかし、「何かをしてあげる」ことではなく、「何もできずにそばにいる自分」を受け容れることができたなら、そしてそれを肯定することができたなら、そばにすることがケアになるというのです。

この言葉はソーシャルワーカーにとっても大切なものではないでしょうか。

患者さんの、ご家族のそばに立ち、「支援しよう」とするよりも先に「共にあろう」とする姿勢が伝わるかどうかで、関係性の醸成は大きく変わるのではないかと思います。

誰でも不安な時、心細い時にはそばで話を聴いてくれると安心するのではないのでしょうか。希望を話す時ただうなずいて聞いてくれるだけで、励まされるのではないのでしょうか。良好なコミュニケーションのうえに良好な支援関係が築かれるといった、基本的なことをいかに丁寧にこなうか、その意識を保つかということが私達の専門性にも大きく関わると思います。

ある患者さんと一緒に手続きのため役所へでかけました。手続きは無事終わり、帰りの車の中でその方に「一緒に来てくれてありがとう」と言われました。その時は手続きが無事に済んだことについてのお礼だと思って「ソーシャルワーカーですから当たり前ですよ」と言いました。しばらくしてベッドから起き上がれなくなるほどの体調になった患者さんから「あの時、役所へドライブしたの楽しかったなあ」と言われた時、あの時の言葉を思い出しました。役所に手続きに行くという支援に対してだけでなく、共に時間を過ごしたことへのお礼だったのではないかと思います。

担当 O・G



福祉の窓

▷659

5年前に脳梗塞となり、後遺症でまひが残りま
した。入院中に下肢の装具を作ってもらったので
すが、一部が壊れてしまいました。新しい装具が
欲しいと考えています。新しく装具を作るための
アドバイスをお願いします。

装具の作り替えについて

装具には、それぞれ「耐用年数」が定められており、新しい装具を希望する場合、まず現在の装具の耐用年数を確認する必要があります。「耐用年数」とは、同じ種類の装具へ新たに作り替える際に補助が受けられるようになるまでの期間のことをいいます。耐用年数の期間中に破損した場合には、原則として「修理」の対応になりますが、あまりにも破損がひどく使用できない場合や、障害の変化によって装具が足に合わなくなった場合は、医師の意見書によつては耐用年数にかかわらず補助を受けて新たに装具を作成できる可能性があります。耐用年数に達していない場合は、主治医や装具を作成した病院へご相談されることをお勧めいたします。

耐用年数確認、主治医に相談

また、現在使用されている装具は、治療用装具として医療保険制度で購入したと思われませんが、身体障害者手帳が交付されている場合は、障害者総合支援法に基づいた手続きにより、補装具費の支給（装具の購入に要した費用の額から利用者負担額（原則1割）を除いた額）を受けるところができます。

身体障害者手帳が交付されていない場合は、各種医療保険制度を利用し、申請手続きを行うことで、その保険の給付割合に従って代金が還付されます。また、全額自費で作成することも可能で、その場合は直接装具業者とのご相談になります。

（県医療ソーシャルワーカー協会 松永理恵）

県ソーシャルワーカー協議会は福祉にまつわる相談を受け付けます。宛先は、〒901-2299宜野湾市、宜野湾郵便局私書箱144号「福祉の窓」係まで。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

☆ 編集後記 ☆

今年の日本シリーズは面白いですね。今日の時点で2-2からの5戦目。目が離せません。夏の疲れが出る時期のはずですが、今日の時点でも真夏日日数の記録更新中!!暑い!!
それでも暦の上では秋です。仕事熱心な皆さんも、趣味の読書や芸術やスポーツ、食欲(?)を満喫していきましょう。
これから、県内はマラソン大会シーズンになります。私事ですが12月のNAHAマラソンには今年も戦隊ヒーローの仮装で参加します。4年連続落選の事務局長スママセン。
公私共にお忙しい中、原稿を快くお受けいただきました皆様、本当にありがとうございました。